No. 111

昭和36年6月1日

昭和31年6月18日第3種郵便物認可
毎月1回1日発行
定価 1部 15円
印刷所 田辺印刷株式会社
上田市原町 TEL1492

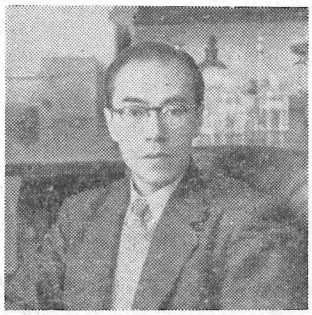
千曲会報

編集兼発行人 小林尚一
発行所 社団法人 千曲会
長野県上田市常入信州大学繊維学部内
振替 長野6243・東京43341
電話上田1215(代表)1218(直通)

界面活性剤の膠質学的ならびに界面化学的研究

黒岩茂隆助教授の学位論文概要

論文は，第1部 非イオン性界面活性剤の膠質学的研究，第2部 界面活性剤の界面化学的研究，となっており，第1部では，同じ界面活性剤でも最近になってようやく実用され脚光をあびるようになった非イオン性界面活性剤をとりあげそれが溶液中で形成するミセルの形態，性状につき詳細な検討を行ない，新しいミセル説を提案した。すなわち，非イオン性界面活性剤のうちには，その水溶液がきわめて低濃度から非ニュートン粘性を示すものがあるという新事実の発見に端を発して，まずその化学構造，例えば疎水基の大きさ種類親水基の重合度および両者の結合様式等とこの現象との関係を究明し，一般に疎水基の大きさに対しある特定範囲の重合度のポリオキシエチレン基を親水基とする非イオン性界面活性剤は非球形ミセルを形成し，そのために水溶液が非ニュートン粘性を示すものであることを明らかにした。そしてこの傾向は，エステル結合のものよりはエーテル結合のものの方がより著しく不飽和パラフイン鎖を疎水基とするものは，不飽和結合による水和ないしは鎖員の熱運動の拘拘などによって，炭化水素部の規則的配列を起しやすく，そのためにミセルはとくに球形より背違しやすくなることなどを明らかにした。



また親水基としてのポリオキシエチレン基の水和性と，ミセルの球形よりの背違との関係については，これら非イオン性界面活性剤溶液が示す非ニュートン粘性におよぼす無機電解質の影響および温度の影響，さらには非イオン性界面活性剤の特性として知られている曇点現象との関係を詳細に追究することによって，げん密な検討考察を行なっている。さらにまたこうして非イオン性界面活性剤が水溶液中で形成するミセルの性状，いいかえればミセルが変形されやすい性質のものであるか否かということについては，溶液の流動光学的な研究（流動複屈折等）を行い，その結果ミセルは決して外的な条件（例えば流動を起させるための剪断力など）によって変形するようなものではなく，むしろ剛体に近い性質のものであることが初めて明白にされた。

他方，非イオン性界面活性剤に濃厚溶液の粘弾性の研究では，粘弾性の濃度依存性および温度依存性を詳細に調べ，非イオン性界面活性剤の濃厚溶液が非常に粘稠で，時にはゲル化するものさえあるのは，ミセルの外側にのびているポリオキシエチレン基の相互のからみ合いによる網目構造の形成，およびそれにともなう水の不動化に由来するものであるとした。そして濃度が約60%以上になると，粘弾性は極大をへて後かえって低下するが，それは逆型ミセルへと構造が移りかわっていくことによるものであるとして，濃厚溶液の構造を論じている。

以上が本論文第1部の主な概要であるが，この外，ミセルの水溶液中における分散状態，さらにまた界面活性剤の工業面，応用面からいってもきわめて重要な可溶化現象などについても種々論及している。

従来界面活性剤の物性に関する研究はイオン性界面活性剤についてのものが大部分で，これまでのミセル説も，ミセルは球形であるとする Hartley の説と，McBain のイオンミセル説とがコロイド学会の双壁をなして今日におよんでいるものであるが，この研究は非イオン性界面活性剤に関する一つの新しいミセル説の提唱として，早くから学会の注目を集め，すでに工業化学雑誌へ発表の本研究は，昭和33年に優秀論文として関係工業会から表彰されている。また日本化学会でも本研究を，昭和34年度進歩賞受賞の有力な候補にあげたが，僅か2・3ケ月のことで年齢オーバーの規約にふれ，受賞候補からはずされたが，本学部にとっても誠に口惜しい限りである。

第2部 界面活性剤の界面化学的研究ではまず水と油が同時にあるとき，与えられた固体の表面がそのいずれの方にさきにぬれるかを判定し，その程度を知る尺度となる“選択湿潤張力”なるものを初めて提案した。それは，水滴が油中で与えられた固体表面に対してなす接触角，およびこれとは逆に，油滴が水中で同一固体表面に対しなす接触角，それに水と油との間の界面張力より求めるという，従来考え得られなかった全く新しい考想の下に行われたものであるが，とくに工業技術面において重要であったにもかかわらず，これまで手の下しようもなかった選択湿潤の問題が，この研究によって初めて解決の手掛りが与えられることになった。

本研究ではこの考えをさらに繊維素系，ビニル系等各種高分子固体に適用し，これらの選択湿潤性およびそれに対する界面活性剤の添加効果を，化学構造との関係において検討し論述している。この研究は，高分子材料の利用を根幹とする種々の工業技術，とくにプラスチック工業，繊維工業，製紙工業，塗料および印刷工業等にとって貴重な基礎資料となり学問的にもまた実際面からも，その将来の発展が大いに期待されている。

この「界面活性剤の膠質学的ならびに界面化学的研究」論文は黒岩先生の母校東京大学工学部に提出されたものであるが，同学工学部でも近年にない優秀な論文として賞讃されている。

東京遊学想い出の記

——学位論文の紹介に替えて——

信州大学講師（繊維学部） 古 平 福 紀

はじめに——私はかつて，2回にわたって東大農芸化学科住木研究室に遊学しましたが，この間，御指導と御援助を賜わりました恩師住木諭介先生はじめ住木研究室の方々，母校の先生方および同窓生の皆様方に本紙をおかりして厚く御礼申し上げます。

さて，学位をとった場合，第三者によってその論文の紹介が行われることが慣例となっています。私はかつて，本紙の編集部員をしていた当時第三者による紹介よりも当人の“御挨拶”などの方が適当ではないかと考え，これを実行しようとしたのですが，つい実現されないでしまいました。今回も私の論文の紹介について部員の方から話を受けたのですが，私はこれをお断りし，自ら筆をとらせて頂きました。文筆甚だ拙い私ではありますが，ここに東京遊学時代の苦しかった想い出の数々の中から，その断片を綴ってお世話になりました方々への御礼の万分の一にも替えさせて頂きます。

遠かった化学への道——私はいま化学への道にようやく第一歩を踏み入れようとしている。想えば実に遠い道であった。昭和14年に養蚕学科に入学した私は蚕が好きでなく，化学が一番好きであった。1年の頃，将来の繊維は合成繊維が主となることを考え，当時漸くさかんになろうとしていた合成繊維の化学に非常に興味をもった。しかし，3年生の時に繊維化学科が新設されると私の考えは急に変り，ついに微生物学の分野にはいってしまった。

昭和21年頃から現在までの間，私が最も全力を注いだ研究は，白きょう病菌の生産する抗生物質と硬化病菌群の生産する毒性物質との問題であったが，ゆきづまるのはいつも目的物として抽出した飴状物あるいは粗粉末を結晶として単離できないことであった。この時ほど適切な指導者につくことを痛感したことはなかった。しかし，私の場合，指導者を蚕糸関係に求めるか化学関係に求めるかは微妙な問題が横たわっており簡単には決められなかった。幸い32年に自費による内地留学（5カ月位という制限づきで）が認められ，東大の住木先生の御指導を頂くことになった。留学の期間が終りに近づいた或る日研究室では公式の送別会を催してくれたが，席上住木先生は「古平君は信州大学という田舎大学で，しかも化学の専門家でないので断るつもりであった。しかし，自分は古平君の熱意を認めて受け入れてやった」と申された。先生は私の熱意を汲みとられ，私は先生の熱意によって化学の道へと漸く進むことができたわけである。

住木研究室——住研は正式の名を農産物利用学研究室と呼ぶらしい。わかりやすくいえば農産製造学あるいは農産加工学である。しかし，研究室の主体はあくまで物質の分離ことに微生物代謝産物の分離およびその化学構造の研究であった。もっとも，助教授の田村先生は合成化学が専門で農薬の合成に力を入れられておったようであるが。

研究室員は当時助手，大学院生，研究生を合せて14名の人が4つの研究室に分れておったが，女性は1人もいなかった。したがって，他の室にくらべると大部汚なかった。掃除は当番制なのだが，私はほとんど毎朝やってしまった。研究の成果をあげるためにはどんなに金が多くかかっても構わないといわれる先生であるが「女性を入れては研究費がもったいない」との理由からどうしても入れさせなかった。

研究室では毎週月曜日の12時半から教室会議なるものが開かれる。田村先生が司会し，まず，教官側より全員に伝えるべきことを説明するが，そのあとは助研会委員の報告およびこれについての協議が会の中心となっていた。助研会というのは農芸化学化全体の助手，大学院生などからなる組織であるが，特別に全体的の会合は行わず，各研究室より1名の委員が出て委員会を構成していた。委員会は毎週土曜の午後1時から開かれ，教官の権限である学生の指導，研究の指導あるいは講師以上の人事に関すること以外の科内の諸問題を協議する1種の公的機関であった。したがって大学院生でも教室会議によって科の情勢をよく知ることができ，また自分の意見を述べる機会があるわけである。私は大変よいやり方であると感心した。私がおった当時，大きな問題としては助手の採用，部室の割振りなどが採り上げられていた。われわれ母校においては，教務員の人達は教官会議には出席しないので，もし，その指導教官がいろいろと話しをしてくれなければほとんど学部の情勢などを知ることが出来ない。いわゆる「知らしむべからず，よらしむべし」的である。若い人達を指導するに当ってはいま少しこの点を検討すべきではないだろうか。母校において若い人達が組合活動に比較的力を入れているような傾向があるのはこのようなためであるように私には感じられる。

空襲——住研に“くうしゅう”なる言葉があった。初めは何のことやらさっぱり判らなかったが，要するにこれは先生が部下を個人指導してやることであった。先生は月に1回位時間的余裕を見つけて1人1人部下の指導を行われる。しかも多くの場合，土曜日の午後6時頃に。これが実に峻烈であり，はじめはたいてい不気嫌で必ず頭くだしにどなりつける。このために“空襲”なる言葉が生れたわけである。私の場合は滞留期間が限られていたので，この回数は相当に多かった。学生からゴジラと愛称されているという先生が，あのおっかない顔をしてやってこられ，いきなりマドロスを突きつけて「今君は何をしている」といわれる。この言葉は先生の癖であったが，私は閉口した「今これこれをやっています」と答えると，とたんに落雷である。「俺にそんなことをいったって判るか，初めから話せ」。住研は東大の外に応微研および理研にもあり，先生はおそらく40人位の人達を指導しておられた。したがって，このような言葉もごもっともなことである。

私は，黒きょう病菌から分離した新毒素 Destruxin A，B の化学構造を研究するため昨年12月から2カ月余り再び住木先生の御指導を頂いた。この時は空襲も実に頻繁であった。12月は30日にも来られ，正月は4日からほとんど連日空襲となった。しかも6時半頃の夜間空襲が多くなった。或る土曜

の午後，先生は具合が悪くて早く帰られたとのことで，私も少し落着いてやれると思った。ところが，7時頃突然はいってこられた。赤い顔をして。「どうした，カゼをひくなよ」「いえ，もうひいてしまいまして」「明日は1日ゆっくり休養しろ，これからが大切なんだからな」「でも半日位仕事をさせて下さい」。これでこの日は偵察飛行ですんだ。一番困ったのは，データの整理が仕事に追いつけないことであった。或る夜，11時頃飲食店で夕食をしながらデータの整理をしているとオカミがノレンをしまい始めた。気がついて終電におくれまいとあわててとび出した。

カウンターカレント——住木先生のことを考えるといつもカウンターカレント（以下C.C.と略記）を想い出す。何かの物質を単離すると必ずC.C.をやらせる。しかも2回繰返して。これをやらないとその結晶を信用してくれない。こんな話があった。放線菌が作る線虫毒素の構造決定を行っていた人が，C.C.を1回しかやらなかったという。その時先生はなんといわれましたかと聞くと，とたんに「ばかやろう」とどなりつけたそうである。Destruxin はC.C.を行う場合乳化する性質があり，したがって3回も失敗を繰返し，20日近い貴重な日を費してしまった。

クリスマスイブである12月24日，この日はまた土曜でもあった。研究室では正午から，前夜米国視察から帰られた田村先生の歓迎ビヤパーテーが開かれた。2時頃であったろうか，私は多少ホロ酔い気嫌で1階の室に帰ってくるとすぐ後から先生が大急ぎでやってこられ「どうした」とどなりつけるようにいわれた。私はC.C.を行った結果について報告すると「その Peak のところを集めていま一度やれ」身の縮む思いがした。なぜならばC.C.装置は多数のガラス管が大きく露出しており，これが廻転するので破損を防ぐには非常に神経を使う。せまい室でこのセミオートのC.C.を1日中使用すると翌朝は起きにくくなる程疲労してしまう。分配曲線と理論曲線とがよく一致していることをお話したが聞き入れられなかった。そこでC.C.装置のモーターの故障を訴えた。「どこのC.C.を使っているんだ」「応微研の方のセミなんですが」「俺の室のやつか，よし俺が電話をかける」驚いた助手の1人があわてて電話口に飛んでいった。幸い相手は不在で事なきを得た。でも先生の気持はおさまらなかった「そのモーターは何だ」「多分ダだろうと思いますが」私は答えた。「そんならロータリーを持っていってくっつけろ」無茶な話である。ロータリーをくっつけろとは。この日はこれで皆帰ってしまった。1人残された私はしばし思案にくれた。しかし，無茶だろうが苦茶だろうがとにかくやらなければならない。「出来ようが，出来まいがとにかくやるんだ」これが先生の主義である。幸い私は機械いじりが好きである。勇気を出して応微研に行った。しかし，誰もいなかった。2階の抗生物質に行くと藤沢製薬から来ている研究生の宮入さんがいたので，先生の話をすると心よく手伝ってくれた。すっかり夕闇にとざされた5時半頃ようやくモーターは出来上った。原因はカーボンブラッシュの減耗であった。クリスマスイブであるというのに，まだ若い宮入さんの真黒に汚れてしまった手を見て私は大変申し訳なく思った。

想い出の忘年会——12月28日夕，研究室の忘年会が催された。私は部外者であったので出席を断ると，この忘年会は年に一度先生が部下を招待してくれる会だから出ないと叱られますよと幹事がいわれるので私も出席することにした。出て見て驚いた。出席者が60余名である。幹事がこれから忘年会を行いますと言い終るとすぐに宴会になった。私は大変に気に入った。酒を前にしての長ったらしい挨拶は大嫌いである。住木先生もこの主義らしい。アルコールが少しまわった頃，先生はやおら立って挨拶をはじめられた。言葉は次第に熱をおびてきた「私は来年3月停年で退職することになっている。いま私が一番気になるのはまだ学位をとっていないものが各研究室（農学部，応微研，理研の住研）に2～3人づついることである。どうか，この人たちは必ず3月までにとってくれ」ついに大きな声をはり上げて涙にむせんでしまわれた。まわりかけたアルコールもとたんに分解されてしまったのか場内は一瞬厳しゅくな静けさにかえった。しばらくしてから，先生は声を更めて続けられた。「来年からといわず明日から大いに頑張ってくれ，今年もまだ3日ある。明日からやってくれ」。そして最後に「今夜は二次会でも三次会でもつき合うから大いに飲もう」と結ばれた。寒たけなわの頃であると思った。田村先生が余興的に「古平君はいつ信州に帰る？」と聞かれた。「30日頃に帰りたいと思いますが」と答えたとたんに住木先生の空襲となった。「お前，信州に帰るのか／信州に帰ったらもう東京に来なくてもいいぞ」。酒の好きな私も酒を飲んだのか，飲まなかったのか，つい忘れてしまった。多くの余興の後，全員起立して“螢の光”が合唱された。研究に，教育に，汗にまみれて努力した1年の歳月を送ろうとする大学の忘年会に“螢の光”は全くよく調和していた。私は，つい知らず知らず頭が少しづつ下るのを覚えた。日本人は，宴会の場合，よく万歳をやりたがる。私は好きでない。結婚の披露宴などのように2人の前途を祝福して行う万歳のような特別な場合を除いては万歳は考えものである。唱い終ると，住木先生が，大きな右手を高らかにあげ「1960年よ，さようなら／」と叫んで会は閉じられた。

研究室に帰り，仕事を始めているとまた幹事が呼びに来た「これから Top（Bar）に行きましょう。みんな行っているので，行かないと先生に叱られますよ」。また行くことにした。途中，幹事が「Top では安いものは飲まないでなるべく高いものを飲んだ方がよいですよ，先生が皆出してくれるのですからね」と教えてくれた。バーについてみると，住研貸切りの超満員である。しかも半数位は立ち飲みである。一番奥には先生と幹部がボックスで論じ合っていた。私は幹事に押しまくられていやおうなしに先生と向い合せに座らせられてしまった。そしてまた空襲である。「研究には正月だの，なんだのというものは無いのだ。奥さんのそばで正月を迎えるのは来年にしろ」。でも愉快なひとときであった。

むすび——はじめ論文の表題は「Oospora destoructor の生産する毒素 Destruxin の化学構造に関する研究」とすることを目標にして仕事を進めた。住木先生も，構造決定によって学位をとらせてやろうとして非常に熱を入れられ，また研究室は私の研究に，2回にわたる遊学期間中11万円もの研究費をおしみなく投入してくれた。しかし，残念ながら化学構造は1月末までにはついに完成し得なかった。したがって表題は「家蚕硬化病菌の生化学的研究」とせざるを得なかった。その内容は，第1編においては，白きょう病菌が生産する抗生物質についての問題を中心として硬化病蚕が硬化するのは菌の生産する抗生物質に原因していることを，第2編においては硬化病蚕の病態生理学を，また第3編においては Asp ochraceus および黒きょう病菌が生産する2つのヂケトピペラヂンおよび黒きょう病菌が生産する新毒素 Destruxin を中心として硬化病菌の生産する毒性物質を論じたものである。（5月20日記）

（蚕29回卒　母校繊維農学科微生物利用学昆虫病理学担当）

会費を納めて下さい

支会を通じて納入するか，又は振替長野6243番を利用して会費を至急納めて下さい。会費は次の通りです。
25年より31年は毎年額200円。32年以降毎年額300円。

物理学会分科会聴講記

5月15日から3日間母校講堂において物理学会の高分子物理分科会ならびに生体物理学分科会が昨年発足した生物物理学会との共催で開かれた。高分子物性論を専改する80人程の学者が全国各地から参集，活発な討論が交された。講演数は高分子関係約40，生体物理12，高分子特別講演2，高分子生体物理合同特別講演が2であった。参会者の約7～8割が高分子関係者であるが，高分子物理学生体物理学が同一の境界領域を含んでいる関係上両分野に共通の興味が集中されたらしい。講演者の多くは雑誌「物性論研究」を論議の場としているグループだけに白熱した議論の中にもユーモアがありウイットがあり，和気に満ちた雰囲気がかもし出された。この会の中心的存在である都立大の山本三三氏が多変数非線型粘弾性論を，群大の林静男氏が非ガウス網目構造の理論を数学出身者らしい扱いをされたのが（筆者の）注目を惹いた。また会の長老格である岡小天氏は二次元における非ニュートン流を原形質流動や血液の流れなど生体物理学における重要性に関連して解析された。非線型，非ガウス，非ニュートン流など"non"という prefix の冠いたタイトルが多くなったことは高分子物性論の現在における潮流を示すものかも知れない。実験物理関係では分子量分布の問題がかなり取り上げられていたようである。かって"分子量分布"という言葉がともすると"背違"に対する遁辞として愛用？されたことがあっただけに特に興味がもたれた。そして理論家の手にかかるのも遠からずの感があった。

生体物理では一橋大学の杉田元宜氏が生体反応系の問題を論理記号を用いて解析したが，少し前の岩波の科学でその一端を知っていただけにこの方法の武器としての優秀性を一層知らされたのである。ORの分野で需用の道を開拓した記号論理学が生体反応にも進出したことには驚いたが生体反応系を情報系とみていることを考えれば当然なのかも知れない。しかしかってフグの論文で名をなし，情報理論が学問としての市民権を得ていないと嘘ぶいた玄白氏の話の内容は非才な筆者には何もわからなかったのであるが……。

特別講演では本学部に関係のあった蚕試の飯塚英策氏の「生糸の力学的特性」は自分のやっていることとも関連していて面白かった。結論的には繭糸繊度の細いものはそれが品種によるものであっても繭層部位によるものであっても，それの動的ヤング率が高くなることを15品種について詳細に実験されたもので，物理学の立場から総括された。筆者は講演の前日高木先生の研究室で即席ラーメンを食い乍ら prelecture をして戯き種々議論したのであるが，この一見いかにも蚕糸的な問題を如何に物理学の場に引き入れるかで苦心されたのを聞き氏の人柄が伺われた。

4日目は星野温泉へのリクリエイションであったが公務のため参加できなかったので報告できず残念である。

公平であるべき聴講記が私見になってしまった。放言を多謝する。

（呉研究室　A.S.）

唐沢正平（故）氏　沖濤治氏ら大日本蚕糸会で表彰

大日本蚕糸会功労者の表彰式が去る5月11日午後会頭吉田精二氏の式辞にはじまり，総裁高松宮宣仁殿下御臨場のもとに蚕糸会館四階講堂で，盛大に挙行された。本年の主な受賞者は次の通り。

恩賜賞，竜村平蔵氏（京都市）蚕糸科学功績賞，渡辺静夫氏（東京都）蚕糸功績賞，沖濤治（上田糸2）故唐沢正平（上田蚕2）棚橋啓三，森本宋，関根久蔵の五氏，蚕糸功学賞は120人であるが，この中千曲会員としては池田正五郎（蚕11）鈴木泰一（蚕13）山本友之丞（蚕15）鈴木玄九（糸18）松野輝彦（糸21）山内一次（蚕25）の六氏が受賞された。

また右表彰式の後第七回貞明皇后蚕糸記念褒賞式が行われた。

右の中唐沢正平氏の功績は，氏が多年官庁および商社にあって蚕種の改良製造業務に従事し，特に「蚕児の雌雄鑑別」の実用化に劃期的な功績をあげたこと，また最近インドをはじめ南方諸国に派遣され，蚕糸業の指導と彼我国親善に大きい貢献をしたことなどである。沖濤治氏の功績は氏が多年，主として生糸検査所においてその業務に精励され，一方生糸品質改良の研究，水分検査に関する機械や検尺機の改良，その他生糸検査の方法などに貢献する所が多く，蚕糸についての技術進歩，斯業の振興に尽された功績が著大であったことなどである。尚当日筆者は受賞者各位にお祝の意を表するため招待をうけた学部長に代って上京出席したが，式前蚕糸関係の諸官庁，大学諸団体代表者20余名の者とともに会頭室において高松宮殿下に個々に拝顔の栄を賜った。

（昭和36年5月11日記　山口定次郎）

母校ニュース

遠藤・久間先生助教授に

繊維工業化学科遠藤恒久講師と，紡織工学科久間秀彦講師は，4月1日付にてそれぞれ助教授に昇任された。遠藤先生は染料化学を，久間先生は繊維紡績を主として担当している。

4職員新たに採用

この4月より教務員として堀口明子氏（黒岩研究室）宮坂照彦氏（高木研究室）が，技能員として増田和子氏（一般教育部）用務員として西沢貞吉氏がそれぞれ入られた。

教職員組合執行部役員決定

4月22日午後一時より開催の繊維学部教職員組合総会において昭和36年度執行部役員は次の様に決定した。

執行委員長	田口　亮平
副執行委員長	坂口　育三
総務部長	一志　俶夫
部員	篠原　昭・清道　伝
厚生部長	今井　輝雄
部員	青沼　茂・押金健吾
文化部長	古平　福紀
部員	峯村千代子
会計部長	石川　博

信大学部対抗弓道大会記

春季信州大学学部対抗学生弓道大会が去る5月14日伊那の農学部で6学部16チームの参加のもと開催された。わが繊維学部学生の奮斗はめざましく，個人優勝をはじめ，下記の如き好成績をあげることができた。

個人	優勝	高野東洋雄君
個人	3位	寺島　英夫君
射型	優勝	土屋　働君
団体	3位	繊維学部（総的中数は第一位であったがトーナメントのため惜しくも3位になってしまった）

3大学体育大会開催予報

第4回3大学体育大会は，京都・東京・上田の3繊維学部学生多数参加のもと6月2日・3日・4日と3日間にわたり，母校を中心として上田市内各競技場で開催される予定である。競技種目は次のとうりである。

野球（硬・軟）　庭球（硬・軟）
蹴球・ラグビー・籠球・排球・バドミントン・卓球・柔道・創道・空手
弓道。

会員だより

神奈川支会総会便り

若葉薫る4月25日，横浜野毛繁華街の一角にある中華料理店「銀華」において，35年度神奈川支会総会を開催した。

当日は本部より松尾先生の御出席を得て，長老，中堅，新進の諸兄が約30名一同に会し，春の一夕をなごやかに過ごした。

席上まづ，伊藤支会長の挨拶に続き，細井幹事長より会計報告，会員動静などの報告があった後，松尾先生より，学部

の諸問題についてのお話があり，新会長はじめ，新幹事諸氏がめでたく選ばれる頃，宴はようやく佳境に入る。

糸第1回卒業の伊藤競大先輩は，なおかくしゃくとして青年の如き意気で，終始宴をリードし，1ケ年間支会長の任にあって，絶えず本部と支会との連絡を密ならしむる大任を果されたのも宜なるかなと頷かせた。

当夜は多方面で各々活躍している人々が集ったのであるが，懐かしい思い出と今後の発展を夢みる話に花が咲き，いつ終るとも思えなかったが，記念撮影の後互の健闘を祈って散会した。

なお新年度会長および幹事は次の諸氏である。

会　長　有賀　康人（斎藤運送店）
幹事長　宮城　忠夫（生糸検査所）
幹　事　塚田　和麿（郡是横浜出張所）
〃　　山本　和男（生糸検査所）
〃　　近藤　成敏（生糸検査所）
〃　　内藤　則雄（市田 K.K）

（青木記）

福島支会総会出席の記

今年のとび石連休はダイヤモンドウィークとか，その最後5月7日福島市可清で総会が開かれた。新緑に冴えた山々に点々と燃ゆるようなツツジの花を眺めながら福島についた。竹内，角替氏の出迎えに恐縮し会場にいく。定刻には30人の参会者となった。原田氏（蚕9）を議長に会議は型のようにすすめられ，最後に役員改選，別項のように決定，力強く新発足することになった。そのうち竹内氏は福島へ赴任以来の名幹事で，殊に昨年は大病を患い入院もしたのによく会務につくしている功績は大きく感謝にたえない。切に御自愛を願いたい。

筆者も本会の近況，学部改新の現況を説明し，今後の協力を要請した。学部改新には会員いづれも真相のわかったことを喜び，今後更に強力な推進をするよう希望があった。つづいての懇親会では老若こもごも立ってあるものは謹厳のうちに，あるものはユーモアを交えて自己紹

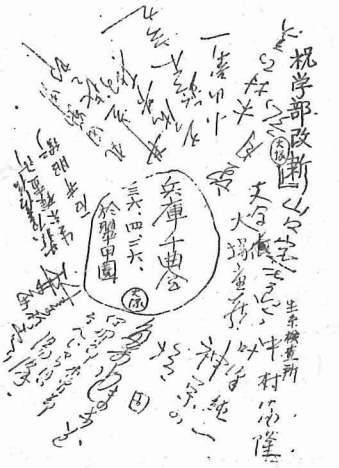
介をし，各自の動静を知りあった。どこの支会へ行っても近頃は青年層の顔がだんだん多くなり喜ばしいことだ。吾々もやがてこれらの人達にバトンをわたすのであるから，できるだけ出席して千曲会の雰囲気を知ってもらいたい。会は和気靄々のうちに終り，今後の活発な活動を語りあい5月空のそよ風に微薫の頬を心よくさましながら三三，五五家路につかれた。役員次の通り（敬称略）

支会長　原田　種亀
副支会長　西沢　正一　田中　四郎
常任幹事　竹内万二郎　角替　赴夫

（荻原記）

神戸千曲会の記

去る4月24日から数日荻原理事長と筆者は昨秋の母校50周年記念の協力者各位



の謝礼，今春新出発の学部改新の報告，之に対する寄附金募集などを兼ねて久し振りに京阪神，三重，東京などを一巡したが，この旅では千曲会員諸氏の一方ならぬ御配慮に浴し，おかげをもつて第一の目的をはたし帰学した。ここに深謝の意を表します。ことに神戸では山の手「翠甲園」で一夜多数の在神会員諸氏の歓迎をうけ，学部の改新事業についての一層協力を願ったが，また改新が新時代にふさわしいものであるとの好評を得，今後一層業界との結びつきを密にすべきであるなど激励をうけた。当日御参集頂いた諸氏が，母校学部長宛に送られた寄せ書は下の通りで真に盛会であった。

大塚支会長，湯沢，塩田，森西，鈴木玄九さんはじめみなさんに紙上を通じて重ねて御礼申し上げます。

（山口定次郎記）

笠原正己氏国際絹大会に出席

6月12日よりロンドンで開かれる第8回国際絹糸大会に笠原製糸上田工場長，笠原正己氏（糸15・本会理事）は日本代表として，一行と共に出席するため5月20日パンアメリカン，ヂエット機にて一行と羽田空港を出立，アメリカの絹業地を視察したあとロンドン大会に出席，終って欧州各国を視察して7月上旬香港経由帰国の予定である。

なお上小支会主催にて5月12日午後6時より上田市ささやにおいて笠原氏壮行会が催され，学内理事も加わり盛会であった。

湯浅文雄氏欧米視察へ

長野紡績株式会社工場長湯浅文雄氏（糸17）は，全国化繊紡懇話会視察団一行と共に4月26日羽田空港発にて欧米各地の化繊紡研究視察の途についた。

4月27日ローマ着，欧州各国を視察して5月18日ニューヨーク着，アメリカ各地の化繊関係を巡歴して6月上旬帰国の予定である。

「針塚先生追想録」予約募集

この追想録は限定出版ですが，その部数をきめることは頒価にも関連するむづかしい問題です。それで予約募集をします。頒価は一応500円～1000円と見込みました。至急予約申し込み下さい。

篤志寄付について

計画的な募金はいたしませんが，心からなる篤志寄附は歓迎すべきことです。追想録がなるべくひろく頒布出来るように，またこの事業がスムースに運ぶように篤志の御援助を願います。

上田市信大繊維学部千曲会館内
針塚先生追想録刊行委員会

会員動静

細田 親二 糸15 愛知 愛知県繭検定所長（豊橋市前田南町）
（兼） 愛知県庁蚕糸課（名古屋市南外堀町6ノ1）
原田 種亀 蚕9 福島 郡山女子短期大学附属高等学校（住）前の通り
竹内万二郎 糸16 福島 福島県製糸協会（福島市上町10蚕糸会館）（住）前の通り
谷内田昭一 糸34 群馬 群馬県立桐生工業高等学校（桐生市）（住）前橋市南曲輪町130
馬場 長市 糸16 東京 （住）東京都武蔵野市吉祥寺2528の24(電)武蔵野(3)7034
黒河 信義 学紡9 近畿 帝国産業株式会社岸和田第一工場製造課（大阪府貝塚市津田167）
（住）大阪府岸和田市南上町329の1帝国産業清県寮
石田 三雄 蚕24 竜川 長野県高遠高第学校（上伊那郡高遠町）
若林 清忠 蚕35 更埴 長野県更級農業高等学校（篠ノ井市）
関本 健一 学糸8 竜川 オリンパス光学工業KK伊那工場（伊那市大字伊那5139
岩岡 敏夫 学紡3 越佐 呉羽紡績長岡工場（長岡市蔵王町呉羽紡績社宅）
滝沢 徳彦 学紡2 近畿 通産省京都繊維製品検査所（京都市上京区中立売智恵光院西入多聞町
小池 了 学紡8 京滋 東洋レーヨンKK瀬田工場（滋賀県栗太郎瀬田町
（住）瀬田町大江東レ大江寮
田中 富男 学紡5 京滋 東洋レーヨンKK技術部サービス部紡織研究所
（滋賀県大津市石山北大路宮ノ内町46の4）
岩上 宏 学紡8 京滋 綾羽紡績KK京都工場（京都市中京区西の京銅駝町5）
内川 善夫 学紡8 岐阜 都築紡績KK糸貫工場（岐阜県本巣郡糸貫村）
田中 秀幸 学紡1 東京 東洋レーヨンKK技術部サービス部東京技術サービス課
東京都中央区日本橋2丁目1
大橋富次郎 紡7 福井 北陸サイジングKK福井工場（福井市三屋町2ノ15）
百瀬 文雄 紡14 富山 呉羽紡績庄川工場（富山県射水町大門町大内50
清水 伝 蚕23 富山 呉羽紡績井波工場（富山県東礪波郡井波町山見200）
山本 周三 紡23 富山 呉羽紡績呉羽工場（富山県婦負郡呉羽町小竹2247）
間宮 広康 学紡8 富山 吉田工業生地工場（富山県黒部市吉田200
彼末 武猪 糸13 近畿 東洋ナイロン編物KK本社（大阪市東淀川区上新庄町3の218
（住）東京都世田谷区北沢1の1155電（421）3188
伊藤 二男 紡17 富山 富山紡績福野工場（富山県東礪波郡福野町100）
笠原 一郎 紡28 富山 呉羽紡績井波工場（富山県東礪波郡井波町山見2000）
大谷 文夫 学紡2 富山 呉羽紡績井波工場（富山県東礪波郡井波町山見200）
清水 英一 糸22 上小 上田職業安定所（上田市北天神町）
市村 亘 学糸5 諏訪 クラウン光機KK（岡谷市）
五味 宏 学糸6 北佐久 北佐久郡北御牧村大日向
虎谷 有朔 学糸3 安筑 鎌田中学校（松本市鎌田）
宮下 力 紡21 上小 毎日新聞上田専売所（上田市丸堀町5686）
下田 幸男 学蚕8 東京 江戸川区第一中学校
（東京都江戸川区東小松川1の5485）
飯島 保雄 学紡3 上小 八十二銀行丸子支店（長野県丸子町）

阿形 一三 蚕25 群馬 群馬県立女子高等学校（桐生市東町812）
依田 武治 糸9 埼玉 邦商株式会社専務取締役（東京都中央区日本橋通3ノ6西川ビル）（住）前ノ通り
宮原 秀人 糸19 東京 片倉工業KK本社営業部（東京都中央区京橋3丁目2ノ4）
土生 碧二 糸24 徳島 片倉工業KK鴨島製糸所長（徳島県麻植郡鴨島町）
水野 方邦 化2 東京 日東紡績株式会社本社（東京都中央区八重洲6ノ1）
依田 光雄 糸36 福島 阿部製糸KK（福島県伊達郡霊山町掛田）
鈴木 忠雄 蚕32 福島 福島県白河農工高釜子分校（福島県西白河郡東村）
小澄 晋 蚕2 熊本 熊本県鹿本郡菊鹿村大字下内田
岩根 謙 蚕11 群馬 甜菜栽培振興事業団事務局長（前橋市曲輪町66県庁農業改良課内）
鈴木 薫 学糸7 愛知 いずみ化学工業研究所（豊橋市関屋町226）
宮下三枝子 学糸7 神奈川 神奈川県鎌倉市植木農林省寮勤前の通り
橋詰 久範 学糸7 更埴 中島製作所（篠ノ井市国道町）
石井 一郎 学糸5 神奈川 神奈川県高座郡寒川町日東タイヤ第2アパート404
勤 前の通り
押鐘平八郎 学糸5 埼玉 杉山製作所（埼玉県武蔵町）
（住）埼玉県飯能市川寺108
戸口文八方
前沢 康雄 蚕14 茨城 茨城県立石岡第一高校長（石岡市）
加藤 省三 蚕19 茨城 茨城県立笠間高校長（笠間市）
影山 剛 蚕33 茨城 水戸市見川町小板倉1153
（勤）前の通り
伝田 敏夫 学蚕3 茨城 茨城県庁蚕糸課（水戸市北三の丸119）（住）結城市神明住宅20号
工藤 和雄 農5 北佐久 長野県小諸市東中学校（小諸市）
小野 邦一 農3 上小 上田市第五中学校豊殿分校（上田市豊殿）（住）上田市緑ケ丘3374の5
三宅 太 紡19 宮崎 宮崎県庁商政課（宮崎市別府町）
大谷 隼人 紡7 愛知 東海合繊KK（愛知県一宮市森所寺42）
吉橋 俊夫 学紡7 愛知 愛知県西加茂郡猿投町越戸字大戸120
高村 八郎 紡28 栃木 雄東興業KK佐野工場（栃木県佐野市堀米町）
田村 幸男 紡20 富山 呉羽紡績庄川工場（富山県射水郡大門町大内50）
越川 治文 紡28 富山 呉羽紡績入善工場（富山県下新川郡入善町600）
松尾 介石 化3 富山 三菱アセテート富山工場（富山市海岸通り）
馬場 慎 化7 富山 三菱アセテート富山工場（富山市海岸通り）
塩田 治夫 蚕38 富山 富山県福野高校平分校（高岡市佐賀野1466の2）
遠藤 恒久 紡20 信州大学繊維学部繊維工業化学科（住）上田市新田大星町2374の1
林部 良彦 学化5 滋賀 滋賀県堅田町429本城民子方
林部千代子(旧姓矢ヶ崎)学化5 同上
林 貞男 学化5 大阪府枚方市香里ヶ丘9丁目住宅公団D六号館304号室
林 鈴子(旧姓村田)学化5 同上
西川 悌雄 学化6 日本レーヨンKK本社（大阪市東区今橋3の5）
西川美津子(旧姓山中)学化6 同上
池内 鼎 学化4 広島県三原市円一町帝人西社宅第5号（勤従前通）
天野 和二 学化4 （住）名古屋市中村区中村町4の98旭荘（勤従前通）
宮沢 守男 学化4 西宮市若葉園2番町帝人静心寮

50周年記念事業募金領収報告（36.5.23現在）

福島支会	4,000円	叶沢　弘	（糸24）
	1,000円	小木曾勝人	（糸31）
埼玉支会	2,000円	依田　武治	（糸9）
群馬支会	1,000円	小菅　貞三	（糸23）
越佐支会	1,000円	桑原　滋	（学蚕6）
石川支部	1,500円	阿良田卓三	（紡専）
	700円	丸山　裕	（紡28）
福井支会	4,000円	宮川　繁治	（蚕13）
北佐久支会	5,000円	小山　二郎	（蚕6）
	3,000円	荒木　慎蔵	（糸18）
	2,000円	舞沢　俊治	（糸34）
	1,500円	相場　高雄	（蚕33前）
上小支会	2,000円	外村　吉高	（蚕29）
		田浦重右衛門	（蚕35）
		清水　猛	（蚕31）
		堀　岳人	（蚕37）
	1,500円	窪田　衛二	（学蚕4）
		羽毛田　博	（学蚕1）
	1,000円	飯島　暢	（農2）
		伊藤　俊文	（学蚕5）
		三輪　雅嘉	（農2）
		宮島　国雄	（化5）
		柳沢　市登	（学紡1）
		田中　福三	（糸35）
		片田　林平	（蚕別3）
		金子　昌英	（学紡3）
		青沼　賢三	（学糸1）
		河合　清	（蚕35）
		宮島　栄一	（学紡2）
		平林　勇	（糸34）
		宮入　広司	（糸34）
		増田　守光	（学蚕3）
		牧内　昭二	（農4）
		横田　三平	（糸4）
		北原　喜昌	（蚕17）
		湯原　諄	（紡7）
		柳島　純雄	（農1）
		広瀬　幸男	（蚕31）
		中曾根悦夫	（学化3）
		飯島　京子	（糸別5）
		竹内　一誠	（学蚕5）
		小林　達也	（糸教6）
		大木　秀夫	（学紡3）
		青木　政治	（糸別4）
		中島　真	（蚕20）
		荒井宇之輔	（蚕15）

更埴支会	500円		
	5,000円		
	3,000円		
	2,500円		
	2,000円		
	1,000円		
	500円		
北信支会	5,000円		
	3,000円		
		永井　真吉	（蚕18）
	2,000円	木藤　平平	（化4）
		松本　光夫	（蚕34）
		宮堀　俊雄	（蚕17）
	1,500円	中村　文雄	（蚕35）
		斎藤　浩	（農4）
		佐藤　久夫	（紡29）
	1,000円	高橋　栄一	（学化3）
		柳原　卓也	（糸別1）
		佐藤　和夫	（学化6）
安筑支会	1,500円	吉越　繁夫	（糸22）
	1,000円	栗中秀一郎	（学蚕2）
	500円	吉田　夏子	（教7）
諏訪支会	1,000円	芹沢　弘文	（蚕32）
岐阜支会	1,000円	高沼　重義	（学蚕8）
静岡支会			
	5,000円	戸倉惣兵衛	（蚕2）
	2,000円	塚本　券司	（農2）
愛知支会	1,500円	相沢　清正	（紡19）
	1,000円	小池　幸澄	（学化4）
愛媛支会	4,000円	工藤　見吉	（蚕17）
小　計		117,500円	
累　計		5833,605円	

暑中見舞広告募集

やがて暑中見舞の季節となります。
8月1日号の暑中見舞広告を次の通り募集いたします。奮って御申込み願います。

締　切　7月15日
料　金　一駒　100円
申　込　千曲会報編集部宛

編集室より

6月1日は信州大学繊維学部開学記念日です。本年は早くも12周年となります。学部改新も軌道にのり，おちついて勉強も出来，大学の目的に精進の気が学園にうかがわれます。

さて会報について日頃御協力をいただいておりますが，この上とも各地に御活躍の会員皆様の模様をお知らせ下さい。御意見，随想，趣味，なんでも結構です。
時節柄会員の御自愛御活動の程御祈りいたします。

編集委員　小林尚一　香山清和　西村喜次　柳沢幸男
中原　武　一之瀬匡興　小山定　大屋正尚　白井要範

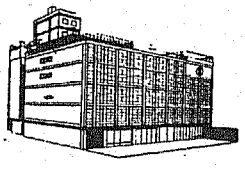
テレビとステレオ
岩城屋ラジオ店
上田市横町 TEL 981

日本工業規格表示許可工場
日本石綿紡織株式会社
本社 長野市三輪本郷
TEL (2) 2675 (3) 0093

綜合建設工事一式
土木建築アスファルト舗装
上下水道衛生設備工事　設計施工
長野県上田市大字常入682
宮下組
TEL（上田）271.2071

島津の科学機械
松下の計測器
有限会社 川上科学キカイ店
川上 保人（学化1回卒）
上田市末広町5293
電話（上田）2321番

母校にお出での際は当ホテルへ
長野県小県郡塩田町
別所温泉
花屋ホテル
電話（塩田）13・31・32番


皆様の百貨店
上田・中央 ほてりや